

| | | | | | |
|---------|--|-------------------------|----|-----|--|
| 氏名(本籍) | あおのひろみ (東京都) 青野宏美 | | | | |
| 学位の種類 | 教育学博士 | | | | |
| 学位記番号 | 博甲第230号 | | | | |
| 学位授与年月日 | 昭和59年3月24日 | | | | |
| 学位授与の要件 | 学位規則第5条第1項該当 | | | | |
| 審査研究科 | 地球科学研究科 地質学専攻 | | | | |
| 学位論文題目 | Geologic Structure of the Eastern Part of the "Sangun-Yamaguchi Belt" with Special Reference to the Formation Process (“三郡一山口帯” 東部の地質構造とその形成過程) | | | | |
| 主査 | 筑波大学教授 | Docteur-ès- Sciences | 佐藤 | 正 | |
| 副査 | 筑波大学教授 | ph. D. | 藤井 | 隆 | |
| 副査 | 筑波大学教授 | 理学博士 | 猪郷 | 久義 | |
| 副査 | 筑波大学助教授 | 理学博士 | 小林 | 洋二 | |
| 副査 | 筑波大学講師 | 理学博士 | 増田 | 富士雄 | |

論 文 の 要 旨

中生代日本の主要な構造帯の一つである“三郡一山口帯”に相当する足尾山地・八溝山地において、見かけ上の層序の確立、層序の細部ごとの堆積環境の推定、さらに現在の地質構造・累重関係をとるに至った過程を追求したのが、本論文の主旨である。

本論文において明らかにされた研究成果は次のように要約される。

- (1) 八溝山地・足尾山地において見かけ上の層序の細部を確定し、可能な限り化石による年代決定を行った結果、同時代の地層が何層準にも繰り返し存在することが明らかになった。その結果から、類似の岩相、年代をもつ地層を類別し、通常層序区分のほかに tectonostratigraphic unit の概念を導入して大きな区分を行った。
- (2) 各 tectonostratigraphic unit が構成される地層について、主として堆積構造に基づく堆積環境の推定を行い、これらの多くがジュラ系の泥質基質の中に異地性の古生界・三畳系が迂りこんで形成された、いわゆるオリストストローム状堆積物であることを明らかにした。しかもその中に、種々の堆積環境を示すものが混在していることが示されている。
- (3) このような異地性岩体、特に足尾山地における葛生石灰岩体(本論文における Unit II)は、現

在地まで地辻りの形式の移動によって運ばれてきたことを、多数の露頭における小構造の解析から明らかにした。その時期は白亜紀初期とされている。また個々の露頭における小構造は、これらが全体として大規模な地辻り岩体の各部分に相当すると解釈できることも示した。さらに、これらを統一的に説明することのできる地辻りモデルを提出した。

- (4) これらの重力による地辻り岩体の滑動方向を、八溝山地および足尾山地のほか、構造的に同一帯に属する木曾山地において確かめた結果、すべて大陸側に向いていることが示された。このことは当時ジュラ紀末から白亜紀にかけ、後背地の上昇があったことを示していると主張している。

審 査 の 要 旨

最近日本列島の生成については、ジュラ紀における地殻変動が重要な役割を果していることが次々と明らかにされてきている。関東地方北部の足尾山地・八溝山地は、ジュラ紀の地層が広く広がり、当時の地質構造の推定に重要な地点になっている。本論文ではこの地域に見られる地層が、従来の解釈と全く相反して、多数の異地性岩塊や岩層を含む地辻り岩体の積み重なりでできていることを明らかにした。この点は我が国の地質構造の研究に全く新しい局面を開いたものとして、高く評価される。

また、岩塊移動の過程として地辻りモデルを提唱し、実際に観察される小構造を含む地質構造が、このモデルとよく合致することを示した。この点も独創的と判断される。

よって、著者は理学博士の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。